

# タクシーを利用した移動ニーズ調査進捗報告

本移動ニーズ調査（以降、実証実験という。）は、生路・藤江小学校区における地域交通の課題解決を目的として、タクシーを活用した移動手段の実態を調査するものである。

公共交通の利便性が低下する中で、住民の移動ニーズを把握し、将来的な地域交通の在り方を検討することを目的として、2025年9月より実施している。

## 1 実施目的

本実証実験により、地域住民の移動ニーズを定量的に把握するとともに、タクシーを活用した柔軟な交通手段の有効性を検証する。

得られたデータをもとに、将来的には住民や地域団体による共助版ライドシェアの導入を見据え、持続可能な地域交通モデルの構築を目指す。

## 2 実施内容

### （1）対象地区

生路・藤江小学校区

### （2）登録者数

90人（2025年12月1日時点）

### （3）実施期間

2025年9月から2026年1月（予定）

### （4）実施方法

①運行時間：午前9時から午後4時

②申請方法：事前登録制

③運賃：片道300円

※実際の運賃との差額については役場が補填する方式（「おでかけタクシー」制度を活用）で運行している。

④目的地：対象地区内の指定された小売店、金融機関、鉄道駅、医療機関、公共施設等

### （5）事前説明会

①開催日程：7月15日～8月25日

②開催場所：町内10会場（全15回実施）

ア 1回開催

平池ふれあいサロン、生路老人会、藤江老人会、生路コミュニティセンター、藤江コミュニティセンター

イ 2回開催

生路ふれあいサロン、藤江ふれあいサロン、ちょっといっぷくや、あつまり処和、あ sobi サロンなどしこ

### 3 利用動向の分析（傾向・特徴）

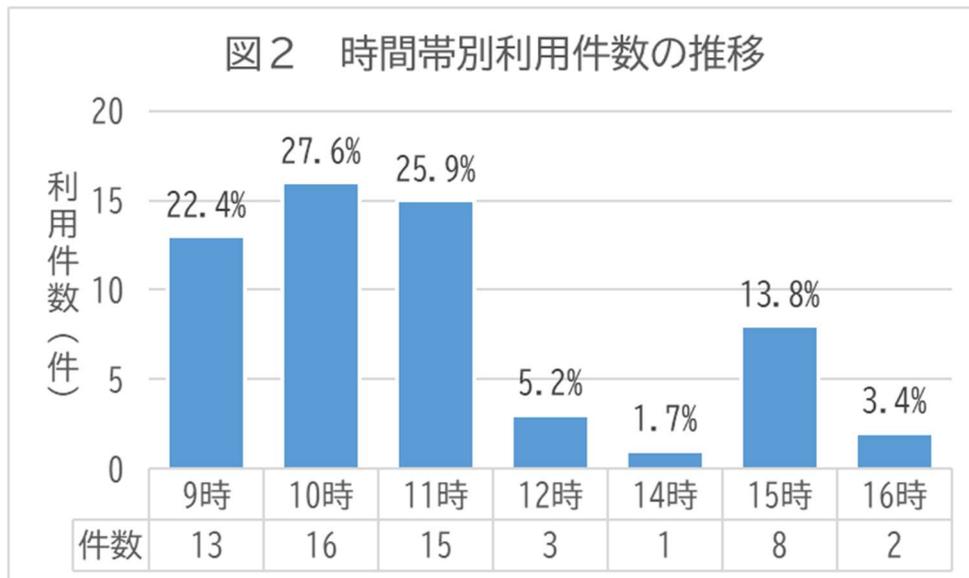
#### （1）総利用件数

9月の実証実験開始から、11月末時点で**58件**の利用があった。9月から10月にかけて利用件数が大きく減少したが、10月から11月にかけてやや増加に転じた。



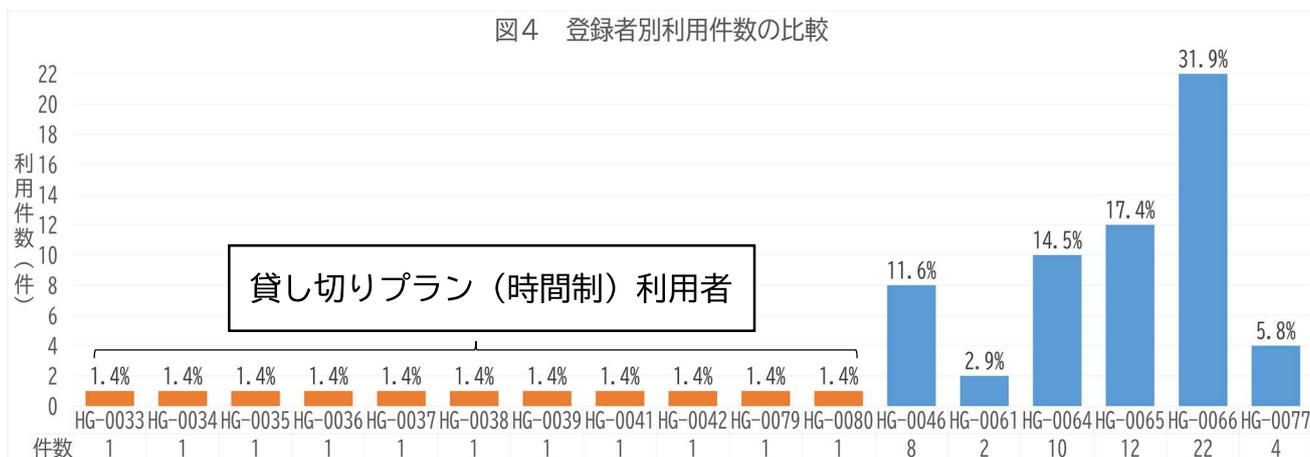
#### （2）配車時間帯の分布

ピーク時間は9時から11時に集中しており、特に**10時では16件（27.6%）**と最も高い割合を占めている。一方で、12時以降の利用件数は減少傾向にある。このデータから、午前中を中心とした利用が顕著に見られるが、午後の利用を増やすための施策が必要であることが考えられる。

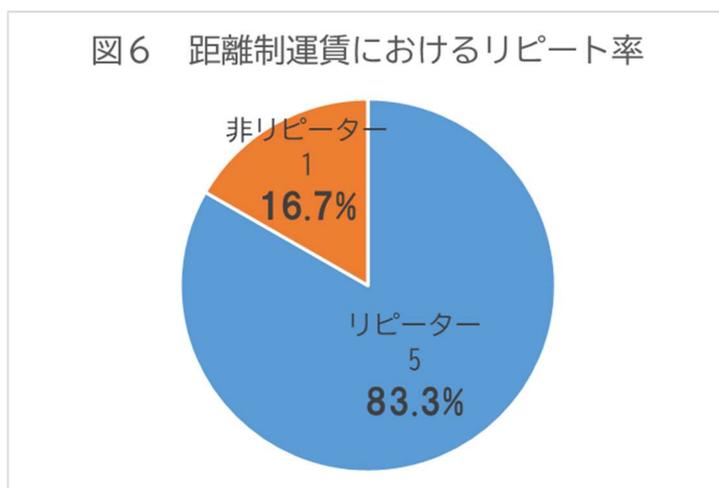
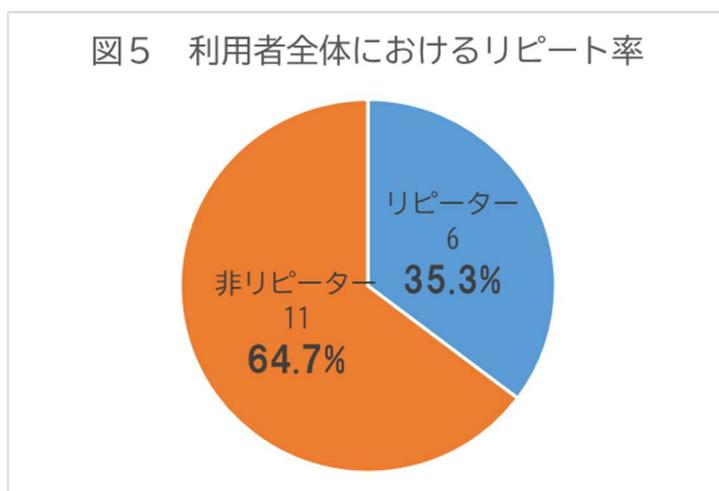


### (3) リピート率の分布

HG-0066が**22件**と最も多く利用されており、全件数の**約32%**を占めている。全体的に、HG-0066、0065、0064、0046が利用の中心となっており、それ以外は利用件数が少ない傾向がある。

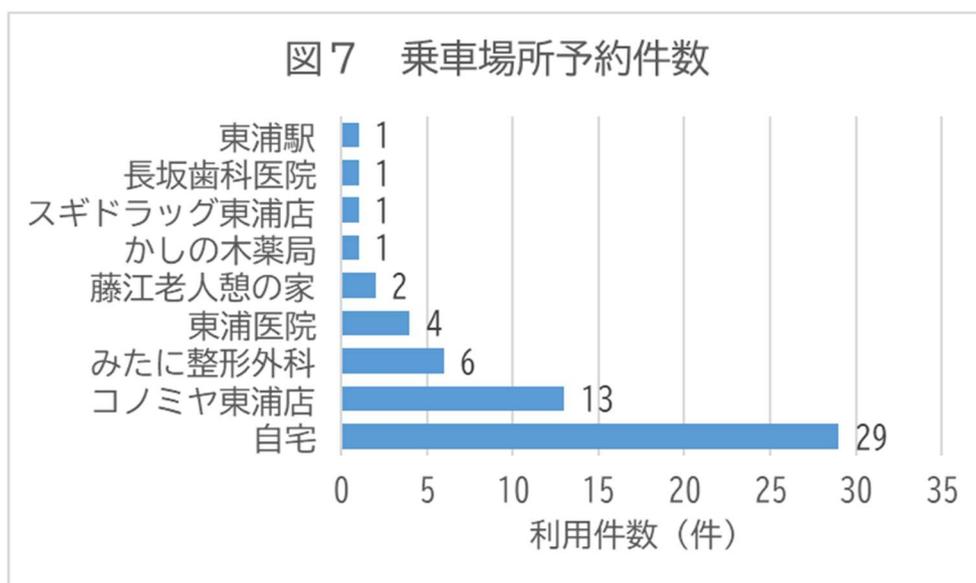


利用者全体におけるリピーターは35.3%、非リピーターが64.7%であり、新規利用者の獲得が課題と考えられる。一方、距離制運賃利用者におけるリピート率は83.3%で継続利用率が高くなっている。

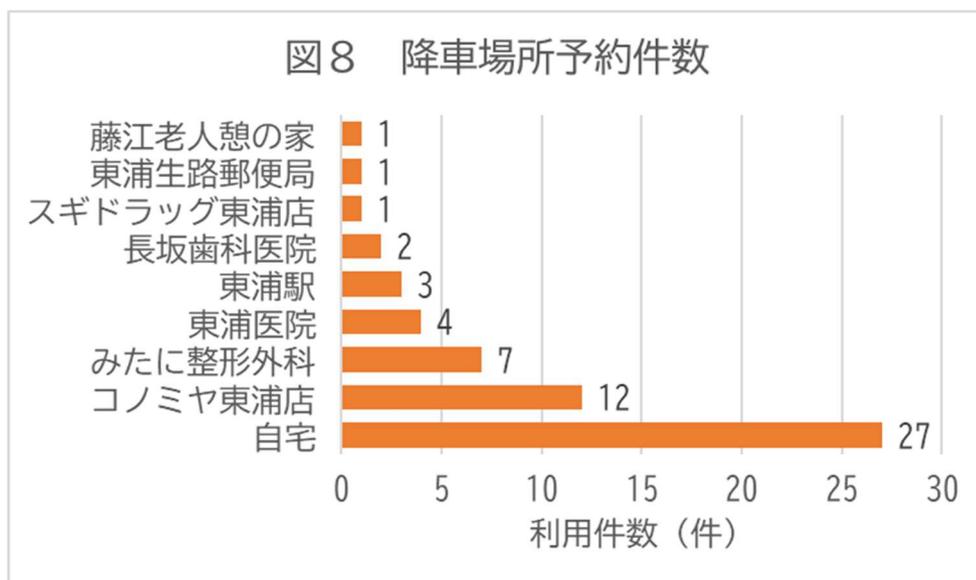


#### (4) 出発地・目的地の傾向

「コノミヤ東浦店」は13件(22.4%)を占めており、買い物を目的とした利用者の割合が大きいことが分かる。また、医療機関の利用が19.0%を占め、「みたに整形外科」6件(10.3%)、「東浦医院」が4件(6.9%)、「長坂歯科医院」が1件(1.7%)である。医療機関へのアクセスニーズが制度の重要な活用目的となっていることが示されている。

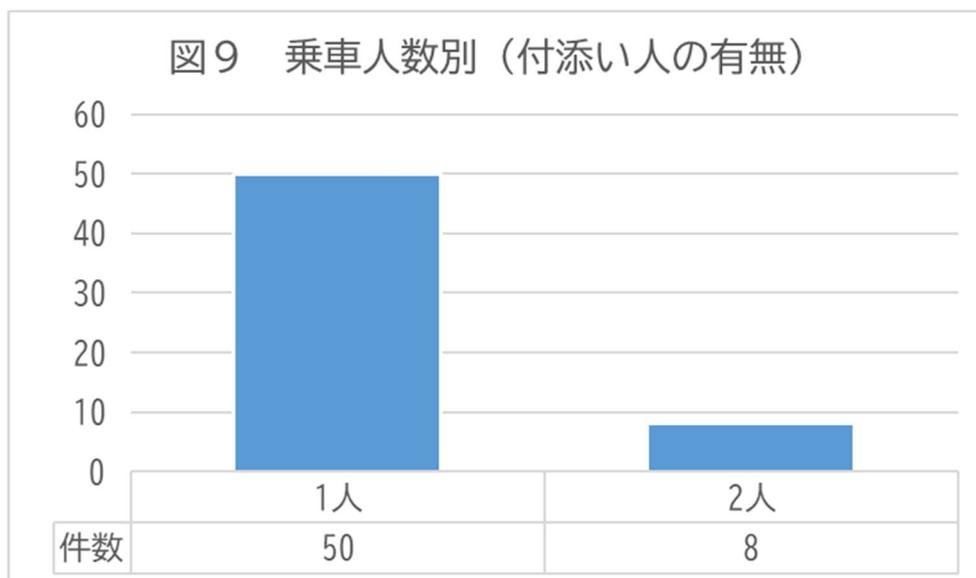


「コノミヤ東浦店」が全体の利用目的のうち13件(20.7%)を占め、買い物目的での利用が最多。次いで医療機関への利用が22.4%を占め、「みたに整形外科」7件(12.1%)、「東浦医院」が4件(6.9%)、「長坂歯科医院」が2件(3.4%)である。また、「東浦駅」の利用は3件(5.2%)となり、交通手段確保の必要性が示されているほか、「東浦生路郵便局」や「藤江老人憩の家」といった地域施設への利用もある。



#### (5) 乗車人数の分布

1人での利用件数が**50件（86.2%）**を占めており、主要な利用形態であることが分かる。一方、2人での利用件数は**8件（13.8%）**と比較的少ない割合となっている。



### 4 課題の整理

共助版ライドシェアの導入に向け、以下の課題が挙げられる。

- 午前中の需要への対応
- 利用目的の偏り
- 仕組みへの参加促進
- 費用と運営の持続可能性

### 5 今後の予定

今後の実証実験では、**利用実績やアンケート結果を分析**し、運行効率、費用負担、予約利便性などの課題を整理する。さらに、地域の「共助」の精神を活かした**共助版ライドシェアの制度・運営方法を検討**し、**住民懇談会**を通じて地域の意見を反映しながら持続可能な交通課題の解決を目指す。地域に根ざしたサービス向上のため、住民の理解と協力を得ながら取り組みを進める。